

島根

隠岐魅力UP

目指せ！世界ジオパーク

冬の日本海は時化が多く、本土から隠岐への船旅はけっこう大変です。隠岐汽船の超高速船レインボー2は11月いっぱいでも今年の仕事納め。12月から2月末まで定期検査のため休止し、冬季は旅客フェリーのみとなります。

船のダイヤ変更に伴って旅行会社のツアーも減り、観光客は激減して各地の資料館も多くは冬季休館。しかし、寒く厳しい冬ならではの隠岐の魅力も当然あるのです。

海士町観光協会の長松久美さんに聞いてみると、「隠岐の冬の星空は最高！海士町なら金光寺山のてっぺんで夜空と向かい合っているのがオススメ」との答えが。

金光寺山は、大山隠岐国立公園に指定された標高1687mの山で、隠岐の島々が見渡せる風光明媚な場所。約600万〜500万年前の島前火山の活動によってできた外輪山にあり、海士町の代表的ジオサイトの一つです。

150mより高い部分には珪長質粗面岩という溶岩からなり、山頂付近では湧水が見られます。湧水の原

冬ならではの楽しみ



金光寺山の自然の中で料理を楽しむたき火カフェ。冬ならではの自然体験—隠岐自然村提供

因については現在も研究が進められていますが、有力なのは「淡水レンズ」説です。火山島は水を通しやすいため、まるで海水をおわんにす。火山島は水を通しやすいため、まるで海水をおわんにす。火山島は水を通しやすいため、まるで海水をおわんにす。透した地下水（淡水）が海（淡水）になりまます。この貯

すつきり ワイドに きょうろ3ページ

水層が圧力を受けているため、高い山の上でも掘れば水が湧くのだと考えられています。そのような不思議な地形の上で夜空を眺めるのも一興。

その金光寺山にある宿泊交流施設で、年間を通して自然体験やエコツアーを行っている「隠岐自然村」（都市農村交流センター）の深谷治さんにも、冬の隠岐の見どころを伺ってみました。

「地形はもちろん魅力的だけど、冬であれば生物に着目するのも面白い。特に猛禽類ではタカの間が北から渡ってきて、見られる種類が増えます。また、自然村での冬の楽しみといえ

ばたき火。イカや野菜の干し物やくん製、木の実を入れた棒巻きパンを焼いたりチーズフォンデュをしたり、たき火料理は季節感も味わえて人気です。海藻のソソをとるのもいいですね。ソソの味噌汁はまさに隠岐の冬の味！」

今回ご紹介したアクティビティは一例ですが、冬の隠岐では、ダイナミックな断崖絶壁の見物とは一味違う見どころや、温かく心身に染みる冬グルメ、暖をとる交流など、夏には味わえないシーンがぎっしりとあります。ぜひ冬の荒波を乗り越えて、自分だけの隠岐を探しにお越しください。

（海士町役場総務課情報政策係 岡本真里菜）